

大学教育学会 課題研究活動報告書 (2022 年度)

提出日 2023 年 3 月 13 日

報告者 吉永 契一郎

課題研究テーマ	SDGs の観点から考える男女共同参画・教職協働・働き方改革
代表者 (所属)	吉永契一郎 (金沢大学)
メンバー (所属)	グループ 1: ダガンさかの (金沢大学)・清水栄子 (追手門学院大学) グループ 2: 奈良雅之 (目白大学)・前田ひとみ (目白大学)・福島真司 (大正大学) グループ 3: 上田忠憲 (大正大学)・吉永契一郎 (金沢大学)
担当理事	飯吉弘子 (大阪公立大学)
コメンテーター (所属)	中井俊樹 (愛媛大学)
実施した活動	<p>本課題研究は、SDGs の観点から、大学における男女協働参画・教職協働・働き方改革を、検討するものである。本年度は、課題研究集会において、3つのトピックの意義を研究メンバーの関心から説明すること、そして、学会員に対してアンケート調査を実施するという二つの目標を達成することができた。</p> <p>4月8日 オンラインによる打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つのグループごとに活動する。 ・会員に対してアンケートを実施する。 ・アンケートについては、金沢大学の倫理審査を受ける。 ・秋の課題研究集会に向けた準備を開始する。 <p>5月13日 オンラインによる打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの作成 ・教職協働に関して、マインドシェアによる調査、目白大学におけるマルチ・ステークホルダー・パートナーシップの事例を活用する。 ・ウェブ・サイトの設置は見送る。 <p>6月10日 オンラインによる打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの倫理審査申請 <p>7月8日 オンラインによる打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの設問の検討 <p>8月9日 オンラインによる打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題研究集会シンポジウムの打ち合わせ <p>10月28日 オンラインによる打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム報告の予行演習 <p>11月27日 オンラインによる課題研究集会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムにおいて報告 ・アンケートへの協力を依頼

	<p>2月6日 オンラインによる打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学会誌へのシンポジウム報告原稿準備 ・年次大会ラウンドテーブルの企画 ・アンケート回答者数 115名
<p>成果</p>	<p>○課題研究集会において、それぞれのグループが、これまでの経験に基づいて、SDGsのターゲットを取り上げる意義を訴えることができた。その過程において、ダイバーシティやパートナーシップ、ワーク・ライフ・バランスの尊重が、個別の事象ではなく、包摂性や公平性、生きがいなど、これまで、暗黙のうちに前提とされてきた序列意識や性差、長時間労働などを問い直す作業であることが明らかとなった。</p> <p>○課題研究集会における報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉永契一郎「趣旨説明・研究計画」 ・清水栄子「男女共同参画の視座」 ・ダガンさかの「国際比較による男女共同参画論」 ・奈良雅之「教職協働・教教協働の視座」 ・前田ひとみ「SDGs 目白大学の取り組み：教員間連携の視点から」 ・福島真司「教職協働論」 ・上田忠憲「現場から考える働き方改革」 <p>○大学教育学会誌（第45巻第1号） 同上</p> <p>○学会員に対するアンケート 115名からの回答</p>
<p>残された課題</p>	<p>本研究課題で取り上げたSDGsの観点は、現在、多くの大学が数値目標を掲げて、取り組もうとしている。しかしながら、それらが、教職員の意識改革にまでつながるためには、さらなる現状の分析と方策の検討が必要である。そのためにも、アンケートの分析、また、他の学会員へのインタビュー、グッド・プラクティスの特定を通じて、次の展開への手がかりを得たい。</p>